

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成30年12月27日(2018.12.27)

【公開番号】特開2017-92782(P2017-92782A)

【公開日】平成29年5月25日(2017.5.25)

【年通号数】公開・登録公報2017-019

【出願番号】特願2015-222439(P2015-222439)

【国際特許分類】

H 04 N 1/04 (2006.01)

G 03 G 15/00 (2006.01)

【F I】

H 04 N 1/04 1 0 7 Z

G 03 G 15/00 3 0 3

【手続補正書】

【提出日】平成30年11月12日(2018.11.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0044

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0044】

画像形成装置10が画像データに基づいてシートに画像を形成する場合、位置補正部211は、シート管理テーブル400から読み出した変換式1乃至5に基づいて画像データを変換する。これによって、シートに対する画像の形成位置が理想位置となるように、形成位置のずれが補正される。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0053

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0053】

<まとめ>

本実施例によれば、イメージスキャナ100の個体差に起因した測定誤差(直角度ずれ)がイメージスキャナ100の製造時に取得され、HDD204等の記憶ユニットに保持される。また、イメージスキャナ100の読み取り結果にはプリンタエンジン150によって発生する直角度ずれtに個体差に起因する直角度ずれを加算することで直角度補正量dが得られる。よって、直角度補正量dはイメージスキャナ100による測定用画像の測定結果から当該測定誤差を低減するよう作成された低減条件の一例である。位置演算部213はイメージスキャナ100による測定用画像の測定結果に対して低減条件を適用することで当該測定結果に含まれているイメージスキャナ100の個体差に起因した測定誤差を低減する。位置演算部213は当該測定誤差を低減された当該測定結果に応じて補正条件(位置ずれ量や変換式)を生成する。位置補正部211はシートにおける画像の形成位置を補正条件にしたがって補正する。このようにイメージスキャナ100に存在する個体差が基準画像である測定用画像の読み取り結果に及ぼす影響が削減されるため、画像形成位置の補正精度が向上する。

【手続補正3】

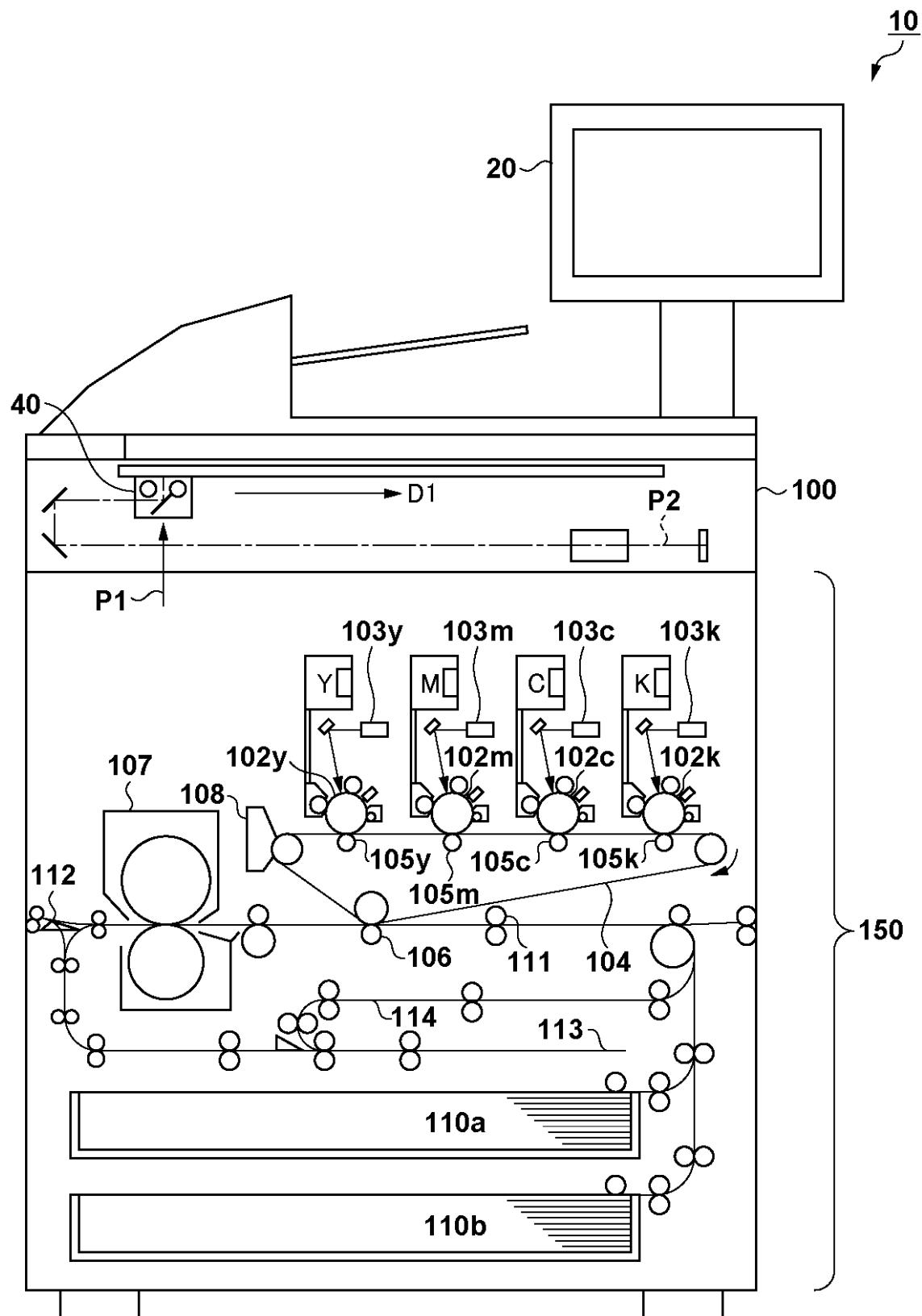
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図1】



【手続補正4】

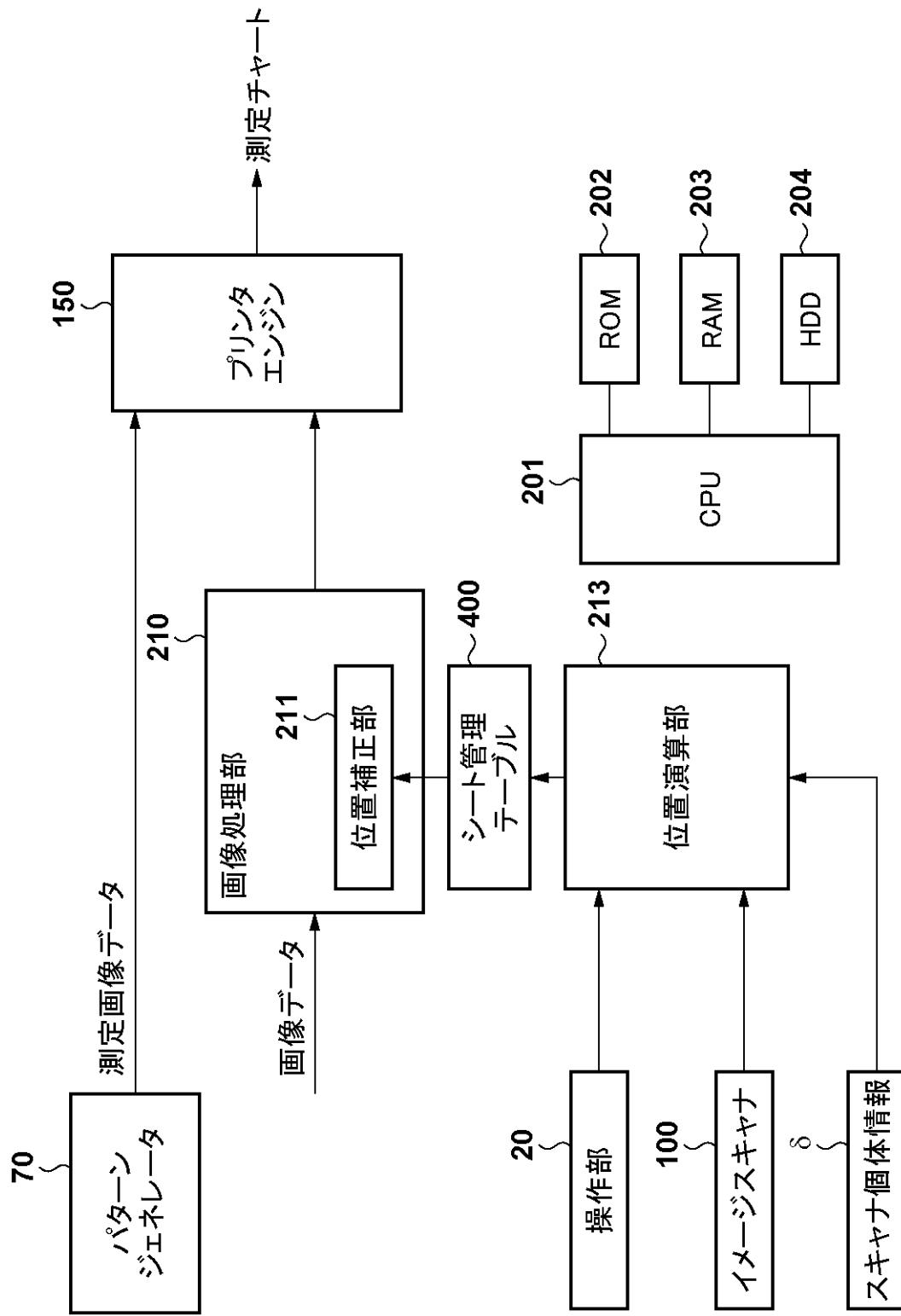
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図2】



【手続補正5】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図9】

